

しまんと

発行：四万十町教育研究所

第119号（通し番号）

令和8年9月18日 発行

今年の夏休みも毎日が猛暑で、なかなか外での活動が難しい毎日だったのではないのでしょうか。クーラーの効いた部屋で、過ごすことの多かった子どもたちは、学校モードに切り替えるには少々の時間が必要かもしれませんね。



仁井田国道沿いのひまわり

先生方に置かれましては、閉庁期間にエネルギーは溜まりましたでしょうか？なかなか、その時間もなかったという方もいらっしゃるかもしれませんが、健康に気を付け、二学期も頑張っていたきたいと思います。教育研究所も学校が閉庁ということもあって、相談数も少なく、比較的ゆっくり過ごさせていただいたように思います。

さて、先日、次期学習指導要領案が出されました。この目玉の一つが対象教科の一定時間数を学校独自の活動に振り替えられる「調整授業時間数制度」で、国は不登校や発達障害など多様な背景がある子どもの「包摂」（排除せずに丸ごと包み込んで、全体の一部として、組み入れること）が目的だと説明しています。国の指定を受け、先行実施する学校は創意工夫するも、制度は学習内容を変えないで、時間を作り出す必要があり、不安の声が出ていると言います。

主な改定の内容

小学校	総合的な探究の時間	「情報の領域」を新設して情報技術の適切な扱いを学習。「総合的な学習の時間」から改める
	国語	手書きでの書写の指導を推進。ローマ字の学習は現行と同じ3年で学習する
	理科	日常生活との関わりを意識して学ぶ単元「理科と日常生活」を設定
中学校	数学	数学と社会との関係性を学ぶ「数学ガイダンス」を新設
	社会	分野横断的単元の「社会へのまなざし」「私たちと社会」「よりよい社会を目指して」を新設
	情報・技術・家庭	情報教育を拡充し、現行の「技術・家庭科」を「情報・技術科」と「家庭科」に再編
高校	国語	履修率に偏りのある現状を踏まえて選択科目を再編。必修2科目と洗濯6科目に
	数学	「数学Ⅰ」に「社会を読み解く数学」を新設。数学A～Cは一つの科目
	情報	小中で学んだ情報技術を活用して課題解決を実践する機会を充実。情報Ⅱで人工知能（AI）を扱う項目を盛り込む
幼稚園		5歳と小1の2年間を「架け橋期」として関係機関が連携しカリキュラム作成
特別支援教育		「通級指導」を柔軟化し、各教科の内容も特例的に教えられるようにする。「合理的配慮」の提供を促す

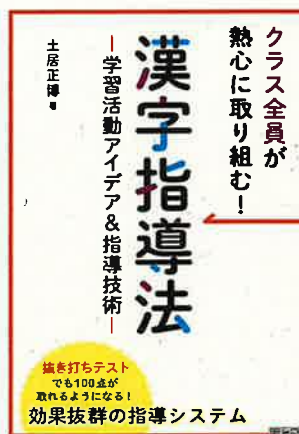
急速に発達した人工知能（AI）が身近になり、教員の果たす役割について問われていくことが懸念されます。以上、情報提供でした。今学期もよろしくお願いします。〈教育研究所 所長 野村 泰子〉

研究所に新しい本が入りました

1. クラス全員が熱心に取り組む！漢字指導法

-学習活動アイデア&指導技術- 土居 正博 著

香美市教育研究所長からご推薦いただいた書籍です。香美市の小・中学校において、研究所主導で漢字のテストを行ったそうです。その結果、正答率の高かった学級担任の先生に「どのような漢字指導をしているか」と尋ねたところ、皆さんがこちらの書籍を読んで実践をしていたそうです。ぜひご一読ください。



電話1本で貸し出しの予約ができます。

教育研究所 西澤(内線:3312)まで、お気軽にお問い合わせください。

研究員が読んで学びの多かった書籍

1. 情報活用能力をどう育てるか 高橋 純、水谷 年孝 編

教育 DX の全国屈指の先進地である愛知県春日井市。児童生徒が自らクラウド上で学習計画を立て、チャットや共有スプレッドシートで主体的に学ぶ「自ら学ぶ授業」への転換に成功しています。そんな春日井市の教育 DX を中心となって進めてきた水谷先生と東京学芸大学の高橋教授らの共著です。

デジタルでもアナログでも、学び続けることのできる学習者を育てるために必須の力である「情報活用能力」。これをどう育てるかという問題を、春日井市での具体例を用いて紹介してくれている一冊です。



2. 基礎学力としてのメディア・リテラシー教育

佐藤 和紀 著

教育 DX が叫ばれる今だからこそ、もう一度立ち止まって考えなくてはならないこと、それが「メディア・リテラシー」ですよね。重要なことだと分かりつつも、教科書があるわけではないため、どんな指導をするのがベストなのか悩んでいる先生も多いのではないのでしょうか。

学校の中で教育 DX を中心となって進めていく先生方にこそおススメの1冊です。冬休みなど少し時間に余裕が出来た時にいかがでしょうか。



四万十町教育研究所 研究員 西澤 尚輝